

衆議院原子力問題調査特別委員会ニュース

【第 212 回国会】令和 5 年 11 月 14 日（火）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 中根委員長から、アドバイザリー・ボードを設置することとなった旨の報告がありました。

2 原子力問題に関する件

- ・原子力規制委員会の活動状況について、山中原子力規制委員会委員長から説明を聴取しました。
- ・岩田経済産業副大臣、山中原子力規制委員会委員長及び政府参考人並びに参考人に対し質疑を行いました。

（参考人）原子力委員会委員長

上坂充君

東京電力ホールディングス株式会社代表執行役副社長 山口裕之君

（質疑者）畦元将吾君（自民）、木村次郎君（自民）、浅野哲君（国民）、逢坂誠二君（立憲）、
米山隆一君（立憲）、阿部弘樹君（維新）、空本誠喜君（維新）、平林晃君（公明）、
笠井亮君（共産）

（質疑者及び主な質疑事項）

畦元将吾君（自民）

（1）新規制基準

- ア 最高位の安全基準とされる我が国の規制基準についての国際水準との具体的比較及び安全性に対する更なる改善点についての山中原子力規制委員会委員長（以下「山中委員長」という。）の見解
- イ 東日本大震災レベルの地震が発生した際の新規制基準における対策の内容
- ウ 新規制基準におけるテロリズム対策の内容
- エ 原子力分野における化学者不足の懸念や新規開発とのバランスも踏まえた規制の在り方についての山中委員長の見解
- オ 再稼働に向けた新規制基準適合性審査の効率性に対する課題及び改善策についての山中委員長の見解

（2）ALPS 処理水の海洋放出

- ア 東京電力福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」という。）における海洋放出時の ALPS 処理水と諸外国の原子力施設からの排水水のトリチウム濃度等の比較
- イ ALPS 処理水の安全性についての国民に対する説明及び今後の情報発信の取組

（3）放射性同位元素（いわゆる R I）の医療分野での利用において、線質、エネルギー及び半減期を考慮した上で規制を行う必要性

木村次郎君（自民）

（1）高レベル放射性廃棄物

- ア 高レベル放射性廃棄物の最終処分場候補地の今後の見通し
- イ 候補地選定において地域住民の対立・分断が起こり得ることについての経済産業省の認識及び解決策

（2）フロントエンド及びバックエンドの課題への対処により、原子力発電事業者の長期的な安定収益の見通しの不透明性が高まっていることに対する経済産業省の現状認識及び今後の方針

（3）災害や原子力事故発生時の避難路としても整備が進められている下北半島縦貫道路及び国道 279 号風間浦バイパスの整備状況及び今後の開通見通し

（4）8 月 29 日の核燃料サイクル協議会で設置が決定した「エネルギー共創・共生会議（仮称）」における検討予定内容及び経済産業省のスタンスについての岩田経済産業副大臣の見解

浅野哲君（国民）

（１） 審査会合の効率化

- ア 長期施設管理計画申請の審査に係る作業が相当量に上ることが想定される中で従来から行われている他の審査を長期化させないための対策の必要性に対する山中委員長の見解
- イ 審査の早い段階での論点明示や事業者との指摘事項の確認等の取組による効果
- ウ 「審査の早い段階」の具体的なタイミング
- エ 審査会合前のヒアリングにおける論点整理や審査の手戻りが少なくなる工夫を進めていくべきとの指摘に対する山中委員長の見解

（２） 原子力安全の不完全性（いわゆる「欠け」）への対応

- ア 原子力安全の不完全性に対応するための原子力規制庁、原子力事業者及び原子力エネルギー協会（ＡＴＥＮＡ）による意見交換の実施によって、規制側と推進側の双方合意のもとに潜在的なリスクの検討が排除される可能性があるとの懸念に対する山中委員長の見解
- イ 同意見交換に原子力委員会のような中立的な立場の者が参加する必要性及び法的な可否
- ウ 同意見交換に原子力委員会を始めアカデミアや職場代表等の多様な立場の者が参加する必要性

逢坂誠二君（立憲）

（１） 原子力災害避難計画

- ア 確実に機能するしっかりとした避難計画を策定せずに原子力発電所の稼働や新設の原子炉への核燃料の装荷を行わないことの確認
- イ しっかりとした避難計画とは地域原子力防災協議会の確認及び原子力防災会議の了承を得た計画を指すことの確認
- ウ 自治体が避難計画を策定する責務を有していることの確認
- エ 自治体が避難計画の内容についての責任を有していることの確認
- オ 原子力防災会議が了承した避難計画について自治体から取下げの申し出があった場合の地域原子力防災協議会の確認及び原子力防災会議の了承の取扱い
- カ 上記オの場合に原子力防災会議の了承等を取り消さない理由
- キ 仮に北海道電力泊原子力発電所の避難計画について、避難時に必要なバスを確保できないことを理由に避難計画の取下げの申し出があったとしても、原子力防災会議の了承は取り消されずに同発電所の稼働の要件は満たされているとの理解の可否
- ク 上記キの場合に原発を停止する必要性
- ケ 原子力防災会議が避難計画を了承した後にはいかなる事情の変化があったとしても、避難計画の撤回及び撤回による原発の停止は行われえないという理解の可否
- コ 日本の原発において原発の敷地外に被害が及ぶ過酷事故が発生し得ることの確認
- サ 日本の原発は立地の際、過酷事故の発生を想定していなかったという理解の可否
- シ 日本の原発は過酷事故の発生時に放射線の影響が原発の敷地内に収まるように立地していることの確認
- ス 原発立地の際、避難計画策定の可否が考慮されなかったにもかかわらず、その策定を自治体に義務付けている現行法は、実現不可能なことを自治体に強いており、不適切との指摘に対する内閣府の見解
- セ 確実に機能するしっかりとした避難計画を自治体が策定できない場合は原発を廃炉にする必要性
- ソ 自治体がしっかりとした避難計画を策定できない場合には新設の原子炉への核燃料の装荷や稼働はできないことの確認
- タ 上記ソの場合には廃炉にする必要性

- チ 上記ソの場合でも廃炉にせず維持し続けることの適否
- (2) 福島第一原発の廃炉に関して、賠償を含めた廃炉に要する費用の見通し及び廃炉の最終的な形態は決まっていないことの確認

米山隆一君（立憲）

A L P S 処理水の海洋放出

- ア 東京電力の処理水ポータルサイトにおいて、処理水のトリチウム濃度の告示濃度限度比を他の核種と同様に表に記載すべきとの意見に対する東京電力の見解
- イ 上記アの意見に対する東京電力の今後の対応
- ウ A L P S 配管洗浄中の廃液飛散による作業員の被ばく事案
- a 本来着用すべき防水性衣服を着用していなかった理由及び再発防止策
- b 当初公表した飛散廃液量を訂正した理由
- エ 経済産業省ホームページの「A L P S 処理水に関する質問と回答」において、汚染水という言葉を使うことへのバッシングが起きないように配慮した質問と回答を作成する必要性
- オ 汚染水の発生量を減少させる目途とその方法並びにデブリ回収の目途及び目途が立たない場合の対応策

阿部弘樹君（維新）

- (1) A L P S 配管洗浄中の廃液飛散による作業員の被ばく事案
- ア 事案の概要
- イ 管理区域内での研修の実施状況及びフィルムバッジの着用状況
- ウ シューズの履き替え、ガウンの装着などが当然行われていたことの確認
- エ 国際基準に則った防護装備の周知徹底がなされていなかったことの指摘
- オ 土屋復興大臣が当該事案の発生を把握していなかった理由
- (2) A L P S 処理水の海洋放出
- ア トリチウムの性質に関する基本的な説明
- イ A L P S 処理水の有機トリチウムの濃度
- ウ 魚介類や海藻類におけるトリチウムの生物濃縮

空本誠喜君（維新）

- (1) 高速炉開発
- ア 政府の原子力関係閣僚会議等における高速炉開発の位置付け
- イ 「もんじゅ」や「常陽」に適用された従来の規制基準を踏まえた今後の高速炉に係る規制の見直しの在り方及び見直しの方針について原子力規制庁の見解
- (2) 核融合炉開発
- ア 革新炉ワーキンググループで取りまとめられた、導入に向けた技術ロードマップを踏まえた原型炉の建設、運転の見通しについての文部科学省の見解
- イ 開発に係る技術的な課題

平林晃君（公明）

- (1) 11月5日に鳥取、島根両県で実施された原子力防災訓練
- ア 同訓練への評価と課題についての内閣府の見解

- イ 迅速な線量検査の実施のための資機材提供に関する国からのサポート、訓練への参加を増やすために必要な経費の国からの支援強化及び重大事故発生時における自宅避難の徹底のための周知活動に向けた国からの支援の必要性
- (2) ALPS 処理水の海洋放出に関連し、国内水産業への更なる支援の重要性についての経済産業省の見解
- (3) 福島第一原発 2 号機における燃料デブリの試験的取り出し作業の進捗状況
- (4) 高レベル放射性廃棄物の最終処分場に関し、より多くの自治体から応募が得られるよう国が更なる努力をすべきとの意見に対する経済産業省の見解
- (5) ペロブスカイト太陽電池の実用化に向けた現状及び今後の取組

笠井亮君（共産）

- (1) 福島第一原発 1 号機の原子炉格納容器内のペDESTAL（原子炉圧力容器を支える土台）
- ア 建設時のペDESTALの全高、内壁の全周、外壁の全周及び厚さ
- イ 水中ロボットカメラ映像で判明したペDESTAL内壁のコンクリート喪失部分の長さ、高さ、深さ及び奥行き並びに底面及び側面の侵食の深さ
- ウ 同カメラ映像で判明した外壁のコンクリート喪失部の長さ、深さ及び奥行き
- エ ペDESTALの損傷メカニズムの解明状況に関する山中委員長の見解
- (2) 原発再稼働に向けた新規制基準適合性審査
- ア 原子炉設置変更許可申請における原子炉格納容器下部のコンクリート侵食量と福島第一原発 1 号機のペDESTALで起きた実際のコンクリート喪失量との間に著しい相違が生じている理由
- イ 現在の解析コードであるMAAP（シビアアクシデント解析コード）に基づく評価が妥当ではないとの指摘に対する山中委員長の見解
- ウ 福島第一原発 1 号機のペDESTALにおいてコンクリートの爆裂が起きた可能性の有無
- エ MAAPにおける爆裂によるコンクリートの喪失現象の取扱いの可否
- オ 福島第一原発 1 号機のペDESTALの喪失、損傷メカニズムが解明されるまで原発を停止し、現在行われている適合性審査も中断すべきとの意見についての山中委員長の見解